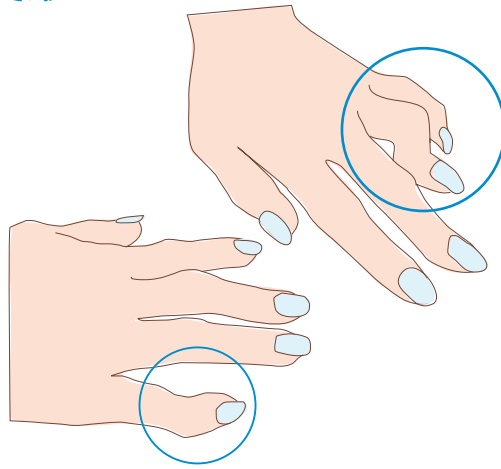


パーキンソン病の話:いろいろ

手足の指の変形



パーキンソン病の手指の変形

パーキンソン病では、手足の指の変形は珍しくはありません。変形には、①徐々に変形が生じて進行していく場合と、②1日の中で朝とか夜に足の指が曲がる(引き

ストのようなタイプが多く、関節リュウマチとよく似ていますが、変形の原因はパーキンソン病であり、リュウマチではありません。パーキンソン病では、前屈みや

つけのようになることもある)場合の2種類あります。今回は、①の持続的な変形について説明します。

指の変形は症状の左右差に関係があり、一般には症状の目立つ側に変形が生じます。従って、病気のごく軽症の時でさえ、注意深く診察すれば指の変形は見られます。上のイラスト

斜めに傾く症状の原因はジストニアだと考えられています。ジストニアとは筋肉の緊張の異常で、病気によって脳内に障害が生じ、筋肉の働きのバランスが狂ってきているためだと理解されます。また、パーキンソン病の治療中にも関わらず、変形が進行していく場合もあります。長くなると、筋肉の萎縮や関節の拘縮を来することがあります。

パーキンソン病以外でも変形は生じる

手指の変形は、パーキンソン病に特有ではありません。病気の初期にパーキンソン病と類似している症状を示す「多系統萎縮症」

「進行性核上性麻痺」「大脳皮質基底核変性症」でも見られます。

対策

パーキンソン病による手指の変形には、手足の指の屈伸運動をリハビリとして行うとよいでしょう。ドパ治療が有効ともいわれませんが、ほとんどの場合に効果はないというのが筆者の経験です。関節が拘縮で固定すると、これを矯正することは困難となりますので、初期から手指の屈伸などのリハビリを行うことが重要です。